氏名	井 谷 史 嗣
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３５４９号
学位授与の日付	平成１３年３月２５日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	INTRA-TUMORAL INJECTION OF DOXORUBICIN (ADRIAMYCIN) ENCAPSULATED IN LIPOSOME INHIBITS TUMOR GROWTH, PROLONGS SURVIVAL TIME AND IS NOT ASSOCIATED WITH LOCAL OR SYSTEMIC SIDE EFFECTS （ドキソルビシン（アドリアマイシン）封入リポソーム腫瘍内投与は腫瘍増殖を抑制し、延命効果を示し、かつ局所および全身の副作用をもたらさない）
論文審査委員	教授　赤木　忠厚　教授　原田　実根　教授　五味田　裕

学位論文内容の要旨

アドリアマイシン封入リポソームの新たな投与経路としての経皮的腫瘍内投与の抗腫瘍効果、局所および全身の副作用について検討した。LipADM (7.5mg/body) または同濃度の freeADM (FADM) を BALB/c マウスの背部皮下移植７日後の Meth-A 腫瘍に経皮的に腫瘍内投与、あるいは経静脈投与し、腫瘍増殖抑制効果、生存期間、体重の変化、腫瘍内および腫瘍臓器の ADM 濃度を検討した。コントロールマウスにはリポソームのみを腫瘍内投与した。LipADM 腫瘍内投与群において有意な腫瘍増殖抑制効果、生存期間の延長が認められ、体重増加はコントロールマウスとほぼ同等であった。　LipADM 腫瘍内投与群において腫瘍内 ADM 濃度が最も高く維持され、主要臓器への ADM の集積も低く抑えられた。また、LipADM 皮下投与局所には潰瘍を生じなかった。以上より、LipADM 腫瘍内投与は、局所および全身の副作用なく抗腫瘍効果を増強すると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、アドリアマイシン封入リポゾームの経皮的腫瘍内投与の抗腫瘍効果、局所および全身の副作用について検討したものであるが、アドリアマイシン封入リポゾームの経皮的腫瘍内投与が、フリーのアドリアマイシンの腫瘍内投与やアドリアマイシン封入リポゾームの静脈内投与に比して、局所および全身の副作用が少なく抗腫瘍効果を増強すると考えられる知見を得ており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。